

「きせきの子牛“元氣くん”を活かした地域づくり研究会」に関する活動報告(第4報)  
—絵本化事業の評価—

福 田 恵 子

美作大学・美作大学短期大学部紀要（通巻第50号抜刷）

報告・資料

「きせきの子牛“元気くん”を活かした地域づくり研究会」に関する活動報告(第4報)  
— 絵本化事業の評価 —

A Report on the Study Group for Local Area Design by means of The Amazing Calf ‘Genky’ (IV)  
: Evaluation of The Project on The Genky's Picture Book Publication

福田 恵子

はじめに

1998年10月17日深夜から18日未明にかけ、岡山県東部を縦断した台風10号の被害は甚大であり、津山市・吉井町・御津町・柵原町では災害救助法<sup>1)</sup>が適用されて復旧活動が進められた。津山市が最終的にまとめた被害状況は表1のようであり、被害総額は56億1,300万円と査定された<sup>2)</sup>。このような状況のなか、津山市金屋の牧場から吉井川の濁流にさらわれ、瀬戸内海の小島に漂着して奇跡的に生還した子牛のニュースは、多くの人々に深い感動と生きる喜びを

表1 津山市の被害状況

| 区 分      | 被 害       |
|----------|-----------|
| 人 死 者    | 0 (人)     |
| 行方不明者    | 0 (人)     |
| 負 傷 者    | 5 (人)     |
| 住家 全 壊   | 4 (戸)     |
| 半 壊      | 5 (戸)     |
| 一部損壊     | 43 (戸)    |
| 床上浸水     | 1,740 (戸) |
| 床下浸水     | 1,414 (戸) |
| 非住家被害    | 638 (箇所)  |
| 〔うち公共施設〕 | [66]      |
| 農林水産施設   | 956 (箇所)  |
| 公共土木施設   | 251 (箇所)  |
| 断 水      | 570 (戸)   |
| 電話不通     | 1,101 (戸) |
| 停 電      | 3,483 (戸) |

与え、復興の励みとなった。本研究会は、この子牛“元気くん”を活かした地域づくりや青少年の健全育成に寄与することを目的として、被災から1年経過した1999年10月18日に発足した。発足までの経緯と活動の概要については、第1報<sup>3)</sup>にまとめている。研究会は、①行政(津山・勝英両地方振興局、勝央町、津山市教育

委員会)、②大学(美作大学)、③第3セクター農業公園(おかやまファーマーズ・マーケット管理運営財団)といった各団体の特性を生かした協働・ネットワーク型のボランティア組織である。

研究会では、これまで本学学生を中心とした紙芝居「きせきの子牛」の制作・上演活動(第2報)<sup>4)</sup>のほか、絵本化事業(第3報)<sup>5)</sup>、3周年記念事業<sup>6)</sup>—語り聞かせ公演、台風10号被災パネル展—等を推進してきた。なかでも絵本化事業は、研究会活動の最大の目的であり、美作地域における台風10号被災を後世に伝える手段として、また、子ども達の健やかな成長に役立つ地域の生きた教材を提供することをめざしたものであった。そしてこの事業は、被災から2年目の2000年10月18日、津山市と美作5郡の幼稚園・保育園(所)および小学校、岡山県内の公共図書館等に絵本『きせきの子牛』(以下、『絵本』とする)を配布したことで一応の終結をみている。本報告は、絵本の配布から一定期間を経た今日、その事業の評価を行うものである。現在、研究会は、2003年3月に事務局を美作大学に残して収束させた状態にあり、本報告をもって研究会の一連の活動は終了となる。

方 法

1. 2002年調査

(1) 調査対象

絵本を配付した津山市および美作5郡内の小学校、

幼稚園・保育園（所）、岡山県内の図書館を対象とした。  
**【小学校】**：津山市立小学校（19校）および勝央町立小学校（4校）<sup>7)</sup> においては、学級担任および司書・図書整理員・図書担当教員（以下、司書等とする）283名に依頼し（津山市245名、勝央町38名）、その他の美作5郡内の小学校67校においては、各校1部の回答を依頼した。

**【幼稚園・保育園（所）】**：津山市および美作5郡ともに、

1園（所）1部の回答を依頼した〔48幼稚園、74保育園（所）〕。

**【図書館】**：岡山県内の公共図書館（津山市においては中央児童館を含む）39施設を対象とした。

## (2) 調査方法

2002年6～7月、郵送法による質問紙調査を行った。小学校および幼稚園・保育園（所）の地域別回答数および有効回収率を表2に示す。図書館等における回収

表2 小学校、幼稚園・保育園（所）に関する地域別調査依頼数および回答数（有効回収率）

| 調査年   | 地域  | 小学校 |     |          | 幼稚園・保育園（所） |     |          |
|-------|-----|-----|-----|----------|------------|-----|----------|
|       |     | 依頼数 | 回答数 | (有効回収率%) | 依頼数        | 回答数 | (有効回収率%) |
| 2002年 | 津山市 | 245 | 167 | (68.2)   | 37         | 29  | (78.4)   |
|       | 勝田郡 | 45  | 12  | (26.7)   | 18         | 12  | (66.7)   |
|       | 苫田郡 | 10  | 6   | (60.0)   | 12         | 9   | (75.0)   |
|       | 久米郡 | 14  | 13  | (92.9)   | 13         | 5   | (38.5)   |
|       | 真庭郡 | 24  | 20  | (83.3)   | 26         | 16  | (61.5)   |
|       | 英田郡 | 12  | 8   | (66.7)   | 16         | 12  | (75.0)   |
|       | 全体  | 350 | 226 | (64.6)   | 122        | 83  | (68.0)   |
| 2004年 | 津山市 | 19  | 19  | (100.0)  | 37         | 22  | (59.5)   |

表3 絵本『きせきの子牛』に関する調査内容の構成

| 調査対象   | 2002年調査   | 2004年調査   |
|--------|---|---|
| 小学校    | I. 地域の台風10号による被災状況  | I. 絵本の教育的意義に関する評価   |
| 幼稚園    | II. 教職員の絵本に関する認知  |   |
| 保育園(所) | (1) 出版認知<br>(2) 学校等への配布認知<br>III. 子どもの絵本に関する認知<br>(1) “元気くん”の認知<br>(2) 絵本の認知<br>(3) 絵本の既読（読む・聴く）状況<br>IV. 学校等での活用状況<br>V. 絵本に関する意見・感想 | II. 絵本化事業の評価<br>III. 絵本に関する自由評価（自由筆記）   |
| 図書館等   | I. 絵本出版・配布経緯の認知<br>II. 貸出し総数（2002年6月現在）<br>III. 絵本に関する意見・感想   | I. 貸出し総数（2004年10月現在）<br>II. 絵本の教育的意義に関する評価<br>III. 絵本化事業の評価<br>IV. 絵本に関する自由評価（自由筆記） |

数は28施設(津山市2,美作5郡6,その他20)、有効回収率71.8%であった。

### (3) 調査内容

調査内容は、表3に示す項目から構成した。

## 2. 2004年調査

### (1) 調査対象

津山市内の小学校および幼稚園・保育園(所)、岡山県内の図書館を対象とした。

【小学校】:津山市立小学校19校の司書等を対象とした。

【幼稚園・保育園(所)】:津山市内の15幼稚園、22保育園(所)を対象とした。

【図書館】:2002年調査と同様。

### (2) 調査方法

2004年10～11月、郵送法による質問紙調査を行った。小学校および幼稚園・保育園(所)の回答数および有効回収率を表2に示す。図書館における回収数は30施設(津山市2,美作5郡6,その他22)、有効回収率76.9%であった。

### (3) 調査内容

調査内容の構成を表3に示す。

## 結果および考察

### 1. 岡山県内の公共図書館等における『絵本』の認知および活用状況

『絵本』は、岡山県内のすべての公共図書館へ配布されている。各施設への配布数は、津山市立図書館20冊、中央児童館5冊、その他の地域の図書館へは1施設につき3冊である。

まず、『絵本』の出版および配本の経緯についての認知であるが、「知らない」と回答がなされたのは1施設(3.6%)のみであり、9施設(32.1%)からは「よく知っている」との回答が得られた[2002年調査]。また、回答のあった28施設のうち23施設から自由筆記による意見・感想が寄せられた。記述内容の内訳は、①絵本の内容や場面構成、絵柄等に関する記述12件

(52.3%)、②利用者に関する記述5件(21.7%)、③配架に関する記述4件(17.4%)、④図書館での活用に関する記述4件(17.4%)であった(資料1)。とりわけ配架方法については、図書館ごとの様子をうかがうことができ、「郷土資料図書」として扱うか、「児童用図書」として扱うかによって貸出し状況に差が生じていることがわかる。また、「面出し展示」等の工夫は、図書館側の『絵本』への関心の高さを反映していると考えられる。

図1は、1図書館当たりの平均貸出し総数の推移[2002年～2004年]を地域別に示したものである。『絵本』配布後2年間[2002年調査]の貸出し状況に着目すると、津山市の貸出し数は他地域のおよそ4倍であり、設置冊数の多さもさることながら、被災当該地域の『絵本』への関心の高さを顕著にみてとることができる。しかし、その後の2年間[2004年調査]の状況については、他地域の利用状況と同様であり、1図書館当たり5～6回/年の頻度で貸出されている。

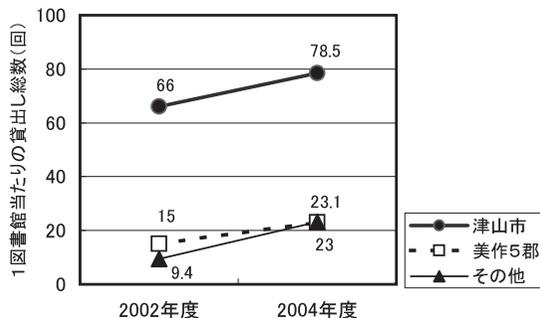


図1 1図書館当たりの絵本『きせきの子牛』の貸出し総数の推移

### 2. 幼稚園・保育園(所)、小学校における『絵本』の浸透状況

#### (1) 教職員の『絵本』の出版・配布に関する認知と既読状況(2002年調査)

『絵本』の出版および配布に関する認知状況 教職員の『絵本』の「出版に関する認知」は、幼稚園・保育園(所)(以下、幼稚園等とする)98.8%、小学校98.2%、「配布に関する認知」は、幼稚園等98.8%、小

**【絵本の内容や場面構成、絵柄等への評価】**

- ・台風10号の大災害を忘れることなく、後世に残していく、また実話を子どもにもわかりやすい絵本にされているという点でも貴重な資料だと思います。私たちの郷土でこういう話があったということは、より感銘を受けると思います。  
…（奈義町立図書館）
- ・この絵本を読んで、多くの被災された人達が励まされたことと思います。絵本としてみた時、文章も場面構成もとてもよくできていると思います。ただ、絵が少し漫画的なのが残念です。  
…（岡山市立幸町図書館）
- ・絵がきれいで迫力があるし、文字も太く、フリガナがあったり、細字の部分も工夫がしてあって、よくできた絵本になっていると思います。…（岡山市西大寺図書館）
- ・奇跡的に助かった実話ということだが、あまりにも擬人化されすぎているように感じた。  
…（吉井町立図書館）

**【利用者の状況】**

- ・貸出しの他、館内でも興味深く見入っている親子、小学生の姿をよく見かけます。中には「どこに行ったら手に入りますか?」と尋ねて来られ、ノースヴィレッジまで買いに行かれた人もいます。  
…（津山市中央児童館）
- ・低学年向きにできていて、ある1年生の女の子は、本を読んだ後、父・母・弟と一緒にノースヴィレッジまで会いに行ってきたと感動していました。吉井川は和気町も流れ、この洪水では図書館のある駅前地区も大きな被害を被っているだけに、本当に「きせき」としかいいようのない子牛には、みんな「よかった」「かわいい」という感情や愛情を感じていると思います。  
…（和気町立図書館）
- ・テレビで本の紹介を見た、大人の方が借りに来られました。子どもに読んであげますが、自分も興味があったとのこと。  
…（倉敷市立中央図書館）

**【配架方法】**

- ・絵本は、別置することなく他の絵本の中に配架しています。  
…（岡山市西大寺図書館）
- ・郷土資料のコーナーにおいていたので、貸出し数が少なかった。今後は児童コーナーへ移します。  
…（里庄町立図書館）
- ・郷土資料として2冊（うち1冊は禁帯出）、児童図書として2冊受入済みである。郷土資料コーナーの貸出しは極めて少ないが、児童図書コーナーでは、「面出し展示」の努力の成果か、ますますの貸出し数となっている。  
…（真備町立図書館）

**【図書館での活用】**

- ・台風の季節になってきましたので、館での読み聞かせ等にも活用させていただきます。  
…（建部町立図書館）
- ・命の大切さ、尊さをもった感動する話で、大切に利用しております。おはなし会などでも利用しました。  
…（新見市立図書館）

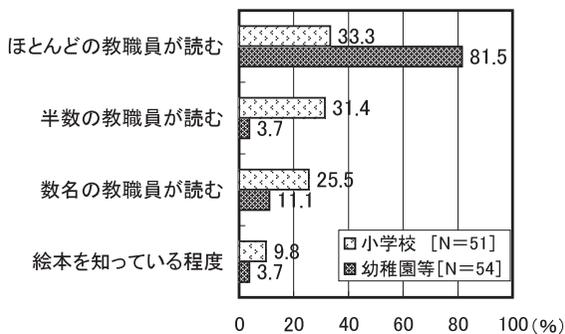


図2 美作5郡:教職員の『絵本』既読状況（2002年調査）

学校92.0%であった。このことから、台風10号災害が“元気くん”をモデルとして絵本化された事実は、津山・美作5郡の幼稚園等・小学校のほとんどの教職員が知るところであり、勤務する職場に配布されていることも周知されていることがわかる。

『絵本』の既読状況 津山市と美作5郡では、幼稚園等や小学校への絵本の配布冊数が異なっていること、また、津山市の小学校においては、1校1回答ではなくすべての学級担任および司書に個別の回答を求めたため、津山市と美作5郡の状況を分けて示すことにする。

図2は、美作5郡の小学校51校と幼稚園等54園(所)における教職員の既読状況を比較したものである。幼稚園等では、約8割の園(所)で「ほとんどの教職員が読んでいる」と回答しており、「半数の教職員が読んでいる」園(所)を加えると85%にのぼる。これに比べて小学校の教職員の既読割合は低く、「ほとんどの教職員が読んでいる」学校は33.3%、「半数の教職員が読んでいる」学校は31.4%であった。「絵本」という性質上、幼稚園等の教職員の関心が高いことがうかがえる。

次に、津山市内の幼稚園等29園(所)における教職員の既読状況について述べる。「ほとんどの教職員が読んでいる」82.8%、「半数の教職員が読んでいる」10.3%であり、美作5郡の幼稚園等教職員よりも既読率はやや高くなっている。

つづいて、図3は、津山市内の小学校教職員167名の既読状況である。70.1%の教職員が「絵本を読んだ」と回答しており、また10.8%が「絵本を購入・所持している」と答えている。両者を合わせると、約8割の教職員が『絵本』を読んでいるととらえることができ、美作5郡の小学校の状況に比べると既読割合はかなり高いことがわかる。

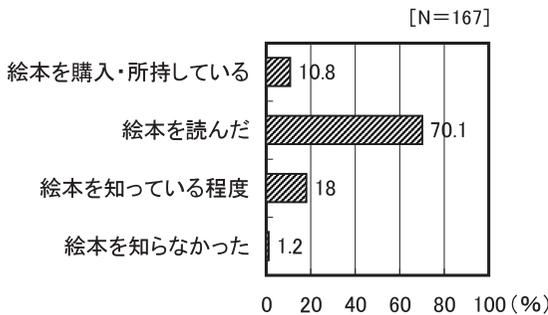


図3 津山市：小学校教職員の『絵本』既読状況 (2002年調査)

津山市と美作5郡とで以上のような違いが生じた背景としては、意識や関心の違いとともに、絵本の配布冊数の違い(津山市の小学校：各校45冊に対し、美作5郡の小学校：各校2冊。津山市内の幼稚園等：幼

児6人に1冊の割合で配布されたのに対し、美作5郡：各施設2冊)が大きく影響していると考えられる。

(2) 子どもたちの“元気くん”および『絵本』に関する認知

『絵本』の認知および内容の把握状況(2002年調査)

図4は、津山市と美作5郡の各小学校における児童の『絵本』の認知と既読(読み聞かせも含む)状況を示したものである。やはり絵本の配布冊数の影響と考えられるが、津山市の方が『絵本』の認知・既読(読む・聴く)割合ともに高い傾向にある。また、認知状況と既読状況を比較した場合、明らかに認知割合よりも既読割合の方が低い、すなわち『絵本』があるのは知っているが、実際に読んだり読み聞かせてもらった割合は低い傾向にあることがわかる。

ところが、図5を参照されたい。これは幼稚園等[全地域]における幼児の『絵本』の認知と内容の把握状況を示したものである。小学校とは様相を異にしており、認知割合よりも内容の把握割合の方が高い傾向にある。これは後述する教職員の読み聞かせとのかかわ

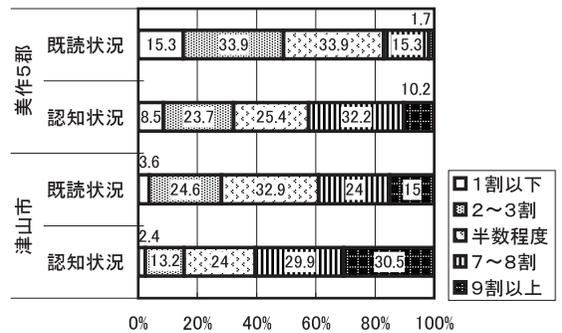


図4 小学校：児童の『絵本』の認知および既読状況 (2002年調査)

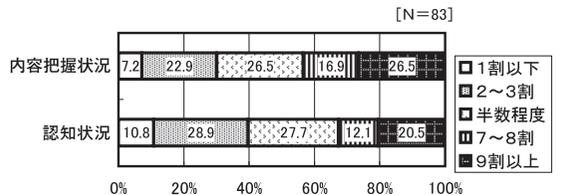


図5 幼稚園等：幼児の『絵本』の認知および内容把握状況 (2002年調査)

りが大きく、特に就学前の保育・指導においては、教職員による「読み聞かせ」が日々の保育・指導内容に取り入れられており、『絵本』が活用されたものと思われる。『絵本』の内容を理解できる発達段階として以下のような報告が寄せられているが、これらの状況から3～4歳以上の幼児において、『絵本』というよりはむしろ「お話」として教職員から語り伝えられ、内容を理解しているということであろう。

・0歳児からの保育園です。3歳未満児には内容的に難しいかと思いますが、4・5歳児には繰り返し読み聞かせをしています。子ども達からは「お母さんは死んだのかなあ」「お父さんはどうなったん？」等の感想が出てきます。命の尊さ、生きることのすばらしさを伝える機会として今後も用いさせていただきたいと思っています。

(津山市：高倉ひかり保育園)

・年少児(3～4歳)に読み聞かせをしたのですが、長い話にもかかわらず、最後まで真剣に見聴きしていた。元気くんの気持ちになって、何とか助かってほしいという思いを持ちながら見聴きしているように思う。(美作大学附属幼稚園)

・【5歳児の様子と感想】集中して見聴きできていた。「子牛がかわいそう」「牛のお父さん・お母さんもとても苦しかったと思う」「黄島について助かってよかった」…等々。

【4歳児の様子と感想】大体、絵本に集中できたが、中には無理な子もいた。やはり「かわいそう」の声が多かったようだ。(勝山町：勝山保育園)

台風10号による学区・施設周辺の被災状況と“元気くん”の認知 図6は、台風10号による各小学校および幼稚園等の学区・施設周辺における被災状況を問うた結果である。台風10号の災害が豪雨によるものであったことから、やはり吉井川流域の苫田郡・久米郡・津山市、旭川流域の真庭郡で被害がでていることがわかる。

「子どもたちがどの程度“元気くん”を知っている

か」[2002年調査]に関しては、図7のようにとらえられており、地域別に比較すると、現在“元気くん”が飼育されている農業公園(勝田郡勝央町)との距離的な関係をうかがうことができ、遠方になるほど子ども達の元気くんの認知状況は低くなっている。さらに、学区・施設周辺での被災状況と元気くんの認知状況とは関連がみられなかったことから(相関係数:小学校-0.01,幼稚園等-0.04)、多くの子ども達にとっては、台風10号の実際的・経験的な被災認識と元気くんの存在は必ずしも結びついておらず、『絵本』は“ある台風での本当にあった話”として認知されているようである。台風10号災害の記憶が時間の経過とともに薄れていくにしたがって『絵本』の地域性もまた薄れていき、「被災の事実を語り聞かせる」大人の意志によってその地域性は蘇るのであろう。そのような教職員の努力もまた以下のような自由筆記のなかにうかがうことができる。

・私自身、前任校(南小)で被災した経験もあるので、毎年、10月18日頃には、現任校でも、当時の様子や、その後のボランティア活動について話しています。その時に、『きせきの子牛』の話から、子ども達に知らせたりするのですが、すでに読んでいる子どももいたりして、導入に役立っています。(高野小学校：担任教諭)

・前任校は、元気くんが流された近くにあって、私も担任の子どもの家(1.8mつかった)の片づけや川のまわりのそうじのボランティアを子ども達としました。台風10号は忘れられません。機会のあるごとに語っていきたいと思っています。(鶴山小学校：担任教諭)

### 3. 幼稚園等、小学校における『絵本』の活用状況

(2002年調査)

#### (1) 活用に関する地域差

絵本の活用のあり方に関して地域差がみられたのは、「学級文庫」として各学級に絵本を貸置く方法である。津山市では、51.7%の幼稚園等、55.1%の小学

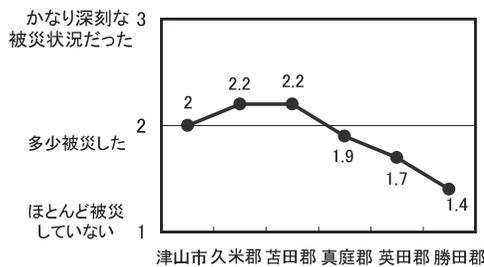


図6 台風10号による学区・施設周辺の被災状況

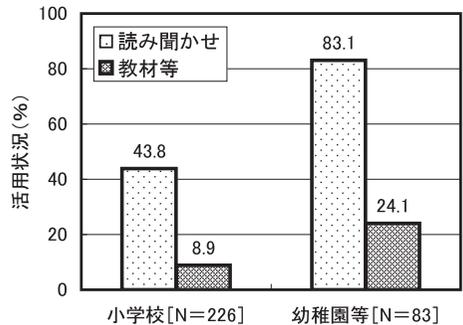


図8 『絵本』の活用状況(2002年調査)

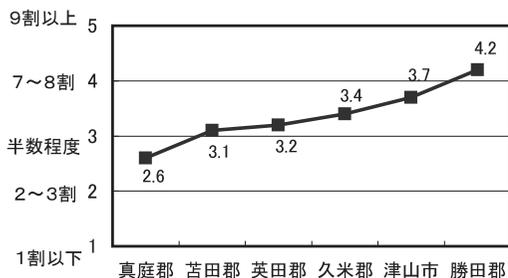


図7 「元気くん」に関する幼児・児童の認知状況  
(2002年調査)

校でこの方法がとられている。これに対し、美作5郡の幼稚園等では25.9%、小学校では28.8%であった。十分な数が配布された津山市では約半数の幼稚園等・小学校において「学級文庫」に絵本が置かれているわけであるが、2冊ずつの配布であった美作5郡の幼稚園等や小学校においては、主として図書室に配架され(約7割)、そこでの閲覧や個別貸出しが行われているようである。この「学級文庫」に関わる活用方法のほかは、とりわけ地域差は認められなかった。

#### (2) 幼稚園等と小学校の活用状況の比較

幼稚園等と小学校の活用状況の違いについては、図8を参照されたい。子ども達への「読み聞かせ」は83.1%の幼稚園等で、43.8%の小学校で実施されている。やはり幼稚園等での実施割合が高くなっているが、しかし、津山・美作5郡の8割以上の幼稚園等で、そして半数近い小学校で「読み聞かせ」が実施されたことは、子ども達の身近で起こった“地域の実話絵

本”として評価されているととらえることができるのではないだろうか。また「教材等」として積極的に活用された割合は、幼稚園等24.1%、小学校8.9%であり、やはり幼稚園等で活用される割合の方が高くなっている。具体的な活用事例については、資料2を参照されたい。幼稚園等・小学校ともに、元気くんのいる農業公園ノースヴィレッジへの遠足の事前学習として活用されている場合が多いようである。つづいて、幼稚園等では生活発表会や避難訓練等の行事で、小学校では学習発表会のほか、道徳や国語科教材として活用されている。また、PTA活動として取り上げられたり、校内放送での朗読、障害児学級交流会の事前学習など、各校で工夫された取り組みも報告されている。

#### 4. 『絵本』および絵本化事業に関する評価

(2004年調査)

絵本化事業は、①津山地域を襲った台風10号災害の事実を後世へ語り継ぐ、②子ども達の健やかな成長に役立つ地域の生きた教材を提供する、という2つの目的のもとで企画・推進された事業である。本事業は、その資金源が(財)自治総合センターのコミュニティ助成および津山市の支援(平成12年度事業)によるものであること、また、地域の人々に愛され続ける“元気くん”をモデルにしたものであるがゆえに、その期待にも応え得る質の高い絵本を制作する責務を負った公共的な事業でもあった。『絵本』の出版・配布から4年という一定期間において評価を実施したのは、そ

資料2 絵本『きせきの子牛』の活用事例（2002年調査）

|                     | 活用内容                          | 活動事例 [自由記述より]   |                                     |
|---------------------|-------------------------------|---|-------------------------------------|
| 幼稚園・保育園（所）          | 指導<br>自然事象の学習 (3)<br>人権教育 (2) | ・日々の生活の中で常に活用しています（情緒面・台風の季節など）。<br>・卒園を明日にひかえた日、それまで何度も読んでいたが、最後のプレゼントとして読み聞かせた。「心の保育」の中で活用したいと思う。   |                                     |
|                     | 発表会など (9)                     | ・生活発表会に表現で劇をしました。かわいそうな劇になり、泣けてしまいました。  |                                     |
|                     | 遠足の事前学習(10)                   | ・遠足に（毎年秋の遠足でノースヴィレッジへ行きます）必ず読み聞かせ、事前指導に活用しています。<br>・親子バス遠足でノースヴィレッジにしたところ、多くの保護者や子どもたちから元気くんの話ができました。以前よりクラス文庫の貸出しに入っていた絵本『きせきの子牛』が大人気で、遠足当日は元気くんに会えたことでより深く考えることができ、災害の恐ろしさや生命の大切さを知ることができました。 |                                     |
|                     | 災害時の避難訓練(4)                   | ・避難訓練で、台風になった場合を想定して行ったのですが、その時、避難した後、『きせきの子牛』のお話を読み、台風の恐ろしさについて話し合った。  |                                     |
| 小学校                 | 国語 (3)                        | ・1、2年生の読書の時間（国語科）で読みました。  |                                     |
|                     | 社会 (1)                        | ・社会科での災害の学習（当時の災害の様子を語り伝える。災害時、復旧に活躍した人々の様子を伝える）。   |                                     |
|                     | 生活 (1)                        |   |                                     |
|                     | 道徳 (6)                        | ・道徳の時間に教材として読み聞かせをし、子どもたちと感想を話し合った（低学年）。  |                                     |
|                     | 総合学習 (2)                      | ・地域の読み聞かせボランティアの方に絵本を読んでもらったり、原画を見せていただいた。  |                                     |
|                     | 特別活動等                         | 朝読書の時間 (1)  | ・全クラスに数冊ずつ配布してあるので、朝の読書等の時間に読んでいる。  |
|                     |                               | 学級活動 (2)  | ・水害のあった10月18日、話をして利用した。             |
|                     |                               | 学習発表会 (5)   | ・学習発表会で2年生全員で朗読し、それを全校で聞いた。歌も歌いました。 |
|                     |                               | 遠足の事前学習(11)   | ・ノースヴィレッジへの遠足の事前指導として読み聞かせをした。      |
|                     |                               | PTA活動等 (3)  | ・参観日を利用して元気くんに関する講演会を実施した。          |
| 郡内障害児学級交流会の事前学習 (1) |                               | ・郡内の障害児学級交流会を元気くんのいるノースヴィレッジで実施した。その時の事前学習の一つとして絵本を読み聞かせた。  |                                     |
| 校内放送での朗読(2)         |                               | ・お昼の校内放送で読むと、図書室にやっけてきて「もう一度読んで」と言ったり、「元気くんに会いに行ったんで」と話したりしていました。   |                                     |

注1) 教材等としての活用状況：小学校20回答（活用率8.9%）、幼稚園等20回答（活用率24.1%）

注2) ( )内は、具体的な活動内容が記載されていた調査紙数。

の安定性・客観性を高めるためである。

(1) 『絵本』の教育的意義に関する評価

表4は、津山市内の幼稚園等・小学校および岡山市内の公共図書館等による『絵本』の教育的な意義に関する評価結果である。9つの評価項目は、2002年調査

において寄せられた意見や感想内容を分類し項目化したものである。

9項目のうち、『生命の尊さ』と『自然災害のおそろしさ』の評定平均値が他項目より有意 ( $p<0.05$ ) に高い結果が得られた。これら2項目は回答のばらつき

表4 絵本『きせきの子牛』の教育的意義に関する評価  
(2004年調査)  
[N = 68]

| 評価項目        | 平均値 (SD)    |
|-------------|-------------|
| 生命の尊さ       | 4.34 (0.79) |
| 自然災害のおそろしさ  | 4.30 (0.80) |
| 生きることのすばらしさ | 4.20 (0.80) |
| 家族愛         | 4.12 (0.93) |
| くじけず頑張る心    | 4.10 (1.00) |
| 勇気          | 4.08 (0.91) |
| 希望をもつことの大切さ | 4.06 (1.01) |
| 優しさや思いやり    | 4.01 (0.98) |
| 自然への畏敬の念    | 3.45 (1.03) |

注) 評価基準: 3=考える素材にはなる  
4=やや感じられる  
5=強く感じられる

も小さいことから、『絵本』のもつ主題としてとらえることができるだろう。また、生きることのすばらしさ、家族愛、くじけず頑張る心、勇気、希望をもつことの大切さ、優しさや思いやりといった項目についても「やや感じられる」という評価がなされていることから、多面的な教育的要素をもった絵本といえそうである。一方、どの項目よりも有意 ( $p<0.01$ ) に評定の低い項目が、『自然への畏敬の念』であった。評価のレベルは「考える素材にはなる」といったものであり、回答のばらつきも大きいことから、読み手のとらえ方や感じ方に左右される要素であると考えられる。

概して、絵本『きせきの子牛』は、子ども達に想像を絶するような自然災害のおそろしさを感じさせ、母牛や父牛の死を予感するかたわら、残された子牛の「生」を祈る気持ちをわき上がらせる実話ならではの力をもっていることが評することができる。そうではあるが、『自然災害』といった現象に対する印象が強いためか、人間もまた『自然』の一部であり自然によって生かされているといった、自然そのものの価値やはたらきを意識的にとらえさせる要素まではもちあわせていないようである。言い換えれば、『絵本』にこのような教育的意義を持たせるためには、『絵本』を語り伝える

大人の意図的・教育的な配慮が不可欠であるといえるだろう。また、『生命の尊さ』のみならず「いかに生きるか」(希望・勇気・努力・愛情等)といった学びについても、大人の意識によって左右されると思われる。

## (2) 絵本化事業に関する評価

図9は、絵本化事業そのものに関する評価である。事業の2つの目的—①津山地域における台風10号災害を後世に伝える、②子ども達の健やかな成長に役立つ地域の生きた教材を提供する—ともに、約6割の回答者が「とても評価できる」としており、「やや評価できる」を加えると、①台風10号災害を後世に伝える事業としては89.7%、②地域の生きた教材を提供する事業としては95.6%の肯定的な評価を得ることができた。無論、「あまり評価できない」という回答も見落としてはならず、①災害を後世に伝える事業について2.9%の否定的な評価もなされている。その背景には、前述したように、子ども達にとって『絵本』は、“台風10号災害の記録”としてではなく、“ある台風での本当にあった話”としてとらえられている実態、そして、次のような意見・感想〔2002年調査〕がその理由を示していると思われる。

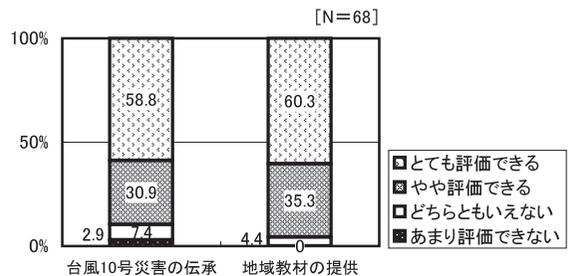


図9 絵本化事業の評価 (2004年調査)

- ・実話ということだが、あまりにも擬人化されすぎているように感じる。
- ・事実を脚色して絵本に作り上げられると、かえって事実とかけ離れてしまいます。

しかしながら、次のような報告・評価〔2004年調査〕もまたなされていることから、この『絵本』は、台風10号災害を後世に伝える役目を果たしていることも確かであろう。

- ・自動車文庫で、小学生がこの絵本を見つけて、担任の先生に質問をしていました。先生は、以前こういうことがあったことを説明されました。今の小学生にとっては昔のことかもしれませんが、このような形で伝えていくことは大切なことだと思います。（笠岡市立図書館）

## ま と め

今年、大規模の自然災害が多発した年となった。6月の台風6号に始まり10月の台風23号に至るまで、合計9つの台風の上陸により、全国各地で甚大な被害が発生した。岡山県内では、台風16号（8月30日）による被害が大きく、特に倉敷市や玉野市等では災害救助法が適用された。つづく台風23号（10月20日）では記録的な暴風が観測され<sup>8)</sup>、津山市内においても強風によって住宅83棟が一部損壊するとともに、至る所で倒木がみられ、農林業関係にも大きな被害が発生している。

本研究会は、1998年、この津山地域を襲った台風10号の激甚災害の事実を後世に語り伝えること、そして吉井川の濁流にのまれながらも奇跡的に生還した子牛“元気くん”を通して、地域の生きた教材を子ども達に提供したいという願いの下に発足した会であり、その基盤は、本学学生たちによる紙芝居の制作、全国紙芝居コンクールへの出場、地域での上演活動といった草の根的な活動に支えられていた。学生の純粋

な熱意が多くの人々に感動を与え、紙芝居は日本アニメーション（株）というプロの手によって脚色・再描画され、絵本『きせきの子牛』が誕生した。そして2002年、全国に販売ルートをもつ出版社ぎょうせいによって一般市場にも売り出された。本来ならば、このような地域性の強い本は自費出版の形態でしかあり得ない。ところがこのような事業が実現できた背景には、次の3点をあげることができるだろう。

第1に、絵本化事業に取り組んだ1999年は、「地方分権の推進を図るための関係法規の整備等に関する法律（地方分権一括法）」が国会で可決・成立した年でもあった。それは地方分権時代の幕開けを意味し、団体自治・住民自治—地域のことは地域で決める、地域の行政をそこで暮らす住民が自らの意思と責任で決める—の時代へと行政システムの転換がなされた年であった。絵本化事業の資金源の一部となった（財）自治総合センターによるコミュニティ助成もその流れをくむものであり、いわば公益的な市民活動ともいえる学生たちの活動を基盤とした、教育機関・行政・第3セクター公園の協働・ネットワーク事業は、新しい時代の先進的な取り組み事例として評価されたと考えることができる。

第2に、地球の環境問題は人類が当面している最大の課題であり、自然災害と環境問題は、地球の絶え間のない営みと人類の営みとの接点で生じている。たとえば、二酸化炭素等の排出を一因とした地球の温暖化は海面上昇や気候の変化をもたらし、自然災害を引き起こす大きな原因ともなるのであり、台風災害をテーマとした絵本は、一地域の出来事にとどまらず、自然の一部としての人間の生活のあり方を真剣に問いかける素材ともなり得るであろう。この点に関しては、2004年調査における自由評価欄に次のような記述もなされている。

- ・今回の台風23号(2004年10月)などで、自然災害のおそろしさを実感した子どもも多いと思います。こういう経験を通して、改めてこの本を読み直したら、また今までとは違った思いを持ちたり、共感する場面など得るものがあるのではないかと思います。(広野小学校)
- ・『きせきの子牛』の絵本は、子ども達に“元気くんの絵本”で親しまれています。この絵本は台風10号の被災を親子で語り継いでいける格好の財産だと思います。近年増加する天災・人災の理解を深める上でも生きた教材になると思います。(林田小学校)
- ・まず、このような絵本を創られたことに心より敬意を表します。今年は玉野でも度重なる台風で大きな被害を受けました。改めてこの絵本を紹介し、皆に元気と勇気をわけ与えたいと考えています。(玉野市立図書館)

第3に、今日の教育界における動向が2つあげられる。1つには、平成10年に告示された現学習指導要領では「学校と地域との連携」が強く打ち出されたことである。学校評議員制度をはじめ、地域の諸資源の活用や地域での活動を可能とした総合的な学習の時間の新設など、地域に根ざした教育の展開と学習機会の設定、教材づくりが望まれているのである。2つ目には、新教育課程は「心の教育」という大きな柱のもとで改訂がなされており、紙芝居・絵本化のモデルとなった子牛の勇気や強さ、希望をもって頑張る姿が、まさに子ども達の情操教育に有用であること、また、その牛が遠足等でよく利用される体験型農業公園において飼育され、本物にふれ親しむことができるといった生きた教材であることが、今日の教育ニーズに即したものであるといえるであろう。そして、ぎょうせい出版社は、教育も含めた地方行政に精通し、地方から中央へ、また地方へ、と情報を発信する出版社でもあり、それが事業の実現を可能とした何よりの強みであったと考える。

絵本化事業の成果および制作された『絵本』に関する第3者評価—絵本を配布した公共図書館、幼稚園・保育園(所)、小学校など、子どもの教育や社会教育諸機関による評価—は、極めて好意的なものであり、美作地域のみならず、公共図書館等を通じて県内の多くの人々に読まれていることも明らかとなった。また、配布から2年および4年経過後といった長期にわたる2度の調査を実施したことにより、地域性や時代を越えた絵本『きせきの子牛』のもつ価値—自らの体験や身近な出来事と重ね合わせて「自然と人間との共生」について考えるきっかけとなる、「生きる」ということについて問いかける—についてもふれることができたように思われる。

最後に、本調査にご協力くださり、それぞれの職場での活用報告やご意見を賜りました津山市および美作5郡の幼稚園・保育園(所)・小学校の教職員の方々、ならびに県内の公共図書館、津山中央児童館の職員の皆様に深く感謝申し上げます。

### 註および参考文献

- 1) 国レベル：平成10年(1998年)10月17日適用。さらに、同年12月11日の閣議決定により「平成10年10月15日から同月18日までの間の豪雨及び暴風雨による災害についての激甚災害の指定並びにこれに対し適用すべき措置の指定に関する政令」が12月16日に公布され、国の補助金増額が適用されることになった。この激甚災害の指定により、国庫補助の割合が被害の程度に応じて最大で90%台までに引き上げられ、津山市の負担が大幅に軽減された。県レベル：平成10年10月18日適用団体に指定された。17日に遡及適用。
- 2) 津山市：台風10号災害—津山市の記録1998年—(2000年3月)
- 3) 福田恵子：「きせきの子牛“元気くん”を活かした地域づくり研究会」に関する活動報告(第1報)—研究会結成までの経緯と活動の概要について—、美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要、第46号、94-104(2001)
- 4) 松岡信義：「きせきの子牛“元気くん”を活かした地域づくり研究会」に関する活動報告(第2報)—紙芝居「き

せきの子牛」の制作と上演活動について－,美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要, 第46号,105-116 (2001)

- 5) 福田恵子:「きせきの子牛“元気くん”を活かした地域づくり研究会」に関する活動報告(第3報)－絵本化事業の概要について－,美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要,第47号,51-66 (2002)
- 6) 福田恵子:「きせきの子牛“元気くん”を活かした地域づくり研究会」と「地域」を結ぶネットワーク形成に関する試み,(社)中国建設弘済会:平成13年度基礎的研究助成金に係る地域の活性化を推進する研究報告(2002)
- 7) 「元気くん」の飼育されている農業公園おかやまファーマーズ・マーケット・ノースヴィレッジの所在は勝央町である。
- 8) 岡山市 41.4m,津山市 50.4m

(2004年12月1日 受理)